

# 令和7年度 摂食・嚥下・口腔ケアチーム PDCAサイクル

- ・脳卒中、頭頸部疾患、肺炎、長期挿管後など発症早期からの嚥下障害の把握、早期発見、早期対応
- ・安全かつ早期の経口摂取の開始、再開（不必要な絶食を避け、安全な食事再開を支援）
- ・誤嚥性肺炎、窒息の予防

## ＜具体的目標＞

- ・摂食機能療法 月75件以上
- ・VE件数 月8件以上
- ・口腔ケア回診介入 月50件以上



Plan

- ・対象患者の早期抽出：脳卒中、頭頸部疾患、重症肺炎、長期挿管後など
- ・早期嚥下評価の実施、体制の構築
- 看護師または言語聴覚士による入院時嚥下スクリーニングテストの実施
- 言語聴覚士による嚥下評価、訓練
- 嚥下内視鏡検査での評価
- ・病棟スタッフへの食事介助方法、口腔ケアの指導、勉強会
- ・週1回の口腔ケア回診、嚥下支援カンファレンス

Do



Action

- ・言語聴覚士の常勤を2名配置する。
- ・対象者を早期に把握、発見、対応するために、病棟看護師から言語聴覚士へ直接連絡し、相談を受ける体制をとっている。脳卒中患者は早期抽出しやすいが、肺炎や頭頸部疾患等の早期把握は、主治医や病棟看護師からの発信が必要である。
- 病棟看護師から言語聴覚士への依頼方法の周知を図る。
- 木曜午後は摂食嚥下障害看護認定看護師が活動日であり相談できる。
- ・急性期治療と並行して安全に経口摂取を開始、再開していくには、理学療法士や作業療法士と連携し、協働していく必要がある。→週1回の嚥下支援カンファレンスの内容を担当理学療法士/作業療法士とも共有する。
- ・病棟スタッフへの口腔ケア指導、食事介助指導は新人看護師のみ対象となっている。レベルⅡの看護師に向け、嚥下調整食の選定や、食形態や機能に合わせた介助方法の研修を企画する。



Check

- ・摂食機能療法 月平均 97.6件
- ・VE件数 月平均 8.5件
- ・口腔ケア回診介入 月平均 68.3件
- ＜評価＞
- ・VEは耳鼻科医と言語聴覚士が主となって行い、業務を調整できたことで目標件数を達成できた。
- ・摂食機能療法算定数も目標値を達成している。言語聴覚士が早期より介入し評価していることが達成できた要因である。
- ・VEを行うことで摂食機能の評価ができるが、急性期治療における状況での判断となる為、必ずしも摂食開始に結び付かない事例もある。
- ・口腔ケア回診は、新規介入者が毎週2人以上の依頼があり、目標値を達成している。

